

くにたちアートビエンナーレは
新たな枠組みの
アート事業に変わります

(公財) くにたち文化・スポーツ振興財団

2020.5.1

くにたちアートビエンナーレは 新たな枠組みの アート事業に変わります！



●第1回 2015. 3/28 授賞式

会期 2015. 3/28-8/30
主催も含めて 19 件のイベント



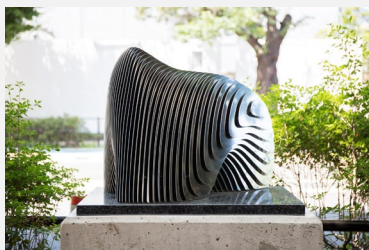
↑ 2015.3 「祝祭」初演 (写真: Mai Kuroki)



(写真: 福嶋幸平)

●第2回 2018. 3/29 授賞式

童謡歌唱コンクール
大いなる循環 (宇フォーラム)
スタンプラリー
Play Me, I'm Yours Kunitachi2018



(写真: 福嶋幸平)



↑ Play Me, I'm Yours Kunitachi 2018 (写真: RIKA OZAWA)

[経緯]

「くにたちアートビエンナーレ」は、全国野外彫刻コンペティションを主軸に 2015 年、2018 年の 2 回開催し、入選作品 16 点が大学通りとさくら通りの緑地帯に設置されました。

第 1 回では 156 日間の会期を設け、会期中、国立在住の作曲家委嘱作品「祝祭」初演や、市民実行委員会の企画による展示、ワークショップ、映像展、アートプロジェクトなど多岐に亘るイベント 19 件を実施しました。

しかし、事務局と市民実行委員会による運営では、ビエンナーレとしての総合的なオーガナイズは難しく、コンペとイベントが別々に進行する中、作品だけが公共の場所に恒久設置されることへの疑問が寄せられました。

第 2 回では、野外彫刻コンペティションと市民参加型アートイベント 4 件に絞って実施、なかでも市民が主役のアートプロジェクト Play Me, I'm Yours は日本初開催となり、市内外の延べ 60,000 人を動員することとなりました。

[アンケートと^{クロスチャット}意見交換会]

これを契機に 2018 年秋、野外彫刻展についてのアンケートを実施した他、誰でも参加できるクロスチャット（意見交換会）を複数回開催しました。

彫刻展・ビエンナーレを問う

- アンケート 2018.8/1-9/30
- クロスチャット

2018.9/7・9/8・9/12



Kunitachi Talk Ground
Cross Chat!

「公財」くにたち文化・スポーツ振興財団は、公募による野外彫刻のコンペティションを主催してはくくにたちアートビエンナーレを開催しています。このアート事業について、また今後行うアート事業について意見を交換し、様々な視点から意見を交換し、新たな野外彫刻展のアンケートと併せて結果を公開します。

テーマ
くにたちのアートのことを話そう

第1回 9月7日(金) 10:00-12:00
第2回 9月8日(土) 10:00-12:00
第3回 9月12日(水) 19:30-21:30

会場
くにたち市美術館ホール・アトリエ

参加費
無料(どなたからでも参加可)

申込
先着20名(要予約)



↑2018 クロスチャット

●文化芸術基本法

地域課題への貢献
社会参加を開く継続的な事業を地域と創る



↑2015 受賞作家土田義昌個展とワークショップ

行政、商業、観光、美術関係、美術家、アート愛好家など様々な立場から率直な意見交換がなされ、ビエンナーレ＝野外彫刻作品コンペという図式への疑問が提示されました。

そして、ビエンナーレは期間を決めた一時的なイベントではなく、**地域と一緒に社会に参与する仕組みをつくり、アートに親しめる拠点や人を育てていく視点をもった事業**であるべきであり、そこに市民と一緒に議論し参画する機会があることが望ましいという意見が多くを占めました。

〔文化芸術推進基本計画〕

さらに、「文化芸術基本法」の施行に基づき、2019年に国立市では「国立市文化芸術推進基本計画」が策定されましたが、文化施設の役割も地域社会の課題に対応した地域貢献や、人々の参加の機会を開く社会的包摂の機能を発揮することが求められるようになりました。

文化施設を担う当財団のビエンナーレ事業もその責務を負い、地域の拠点として未来を見据えた地域課題への貢献や、社会参加を開く継続的な事業を地域と創る方向へと転換が迫られています。

〔新しい枠組み〕

このような状況の中、2年をかけて検討を重ねた結果、ビエンナーレとして彫刻作品を公募し、コンペを開催、賞金を授与して彫刻作品を街に設置していくという枠組みの継続は困難であると考え、新たな枠組みでスキームを作るため、くにたちアートビエンナーレは一旦中止することを決定いたしました。

現在、市内外の様々な主体が連携、協働し、アーツカウンシル東京の協力を得て、調査や仕組みづくりを行っています。

なお、2015年から設置された彫刻作品は、今後も自然のギャラリーで四季折々の色彩を背景にその姿を映し、市民の皆様が親しまれるだけでなく、作家の個展やワークショップなどの事業を継続して行っていく予定です。

野外彫刻展の立ち上げにご理解を賜り、ご支援ご協賛をいただきました皆様並びに彫刻家の方々の期待に沿えず、誠に恐縮に存じます。

しかしながら、文化芸術の薫るまちを標榜するくにたちの新しいアート事業にその期待を繋いでいく所存でありますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。